

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルド・ホープ		
○保護者評価実施期間	2025年1月27日		～ 2025年2月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2025年1月27日		～ 2025年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動を行う際、本人の意思を尊重していること。個々の年齢や特性、発達程度に配慮して支援していること。	活動を予めいくつか用意しておき、子どもが選択できる事を常に意識して、自己決定力の向上を支援している。人数が超過するときは移動したり譲ったり、他者を思いやる気持ちを育てている。	それぞれの特性、困り感の違いを「わかろうとする」「尊重し合う」ことに近づくことができるよう、他者を理解して自己との違いを認めつつ尊重し合えるよう、SSTや話し合いの取り組みをしていく。
2	季節に合わせバラエティ、オリジナリティに富んだ活動を提供し、子ども達の「やってみたい」「試したい」といった主体性を尊重し、ワクワクするような活動を提供していること。	学校休業日は、調理学習、製菓学習、お出かけ、バスや電車に乗る活動、買物の活動、外食して自分で注文する活動、工作製作、古いパソコンを分解する等の活動。また学校授業日は短い活動時間の中で、風船バレー、長縄跳び、パソコン練習等を行っている。子どもたちが楽しみながら、五領域の支援を満遍なく行えるよう意識している。	一般の学童や地域の児童組織等と交流できる取り組みをしていきたい。事業所で畑を借りているが、有効利用したい。
3	子ども達の将来の自立を見据えた活動を提供していること。	毎回、宿題に取り組んで規則的な生活習慣をつけるとともに基礎学力をつけること。調理学習により調理力を身につけること。様々な作業により手先の巧緻性を養うこと。様々な場面でコミュニケーション力を育て協力を求められるようにすること。買物や支払いの活動を通して、お金の勘定ができるようにすること等、自立に向けた支援と自己決定力を育てることを常に意識している。	自己決定したあとのメリットやデメリットを自ら納得して受け入れることができるよう、更に支援していきたい。
4	保護者と連絡を取り合い、意見や要望を常に聞き取るとともに、子育ての悩みや苦勞を共有し、保護者の子育てを支援していること。	送迎時での連絡や相談。保護者会の開催。また、電話やメール等による相談に常に応じている。保護者様の話を傾聴し共感することを基本にしているが、適宜アドバイスを行うこともある。	通信方法等を更に工夫し、保護者様との連絡を取りやすくする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が手狭であること。バリアフリーが不十分であること。危険箇所が目立つこと。台所の設備等が十分でないこと等の施設のハード面の弱さ	元々一般の人を対象としたアパートであり、障害児施設として作られた施設でないことが要因。	危険箇所の点検をして、緩衝材を貼り付けたり、物が崩れないように補強したり、手を入れる。段差は可能ならスロープをつける。
2	地域との交流や一般の児童との交流の機会の少なさという弱み。	地域や他の児童施設と連携することは、これまでずっと探求してきた。やはり、関係部署と連携を取り合い、放デイと一般の学童及び学校との交流事業を進めていくのは単体の放デイとしては荷が重い。	例えば、「放デイ放課後児童クラブ連携協議会」を設置するよう高崎市に求めていくとともに、単体の放デイとしてできる活動を探り、畑を使って近隣のこども園と交流活動ができないか、等を検討していく。
3	看護師、理学療法士等の高度な専門職員がいない弱み。	施設を利用する子どもたちの特性から、特に必要を感じずにこれまでやってきたこと。	高度に専門的な職員を配置することのメリットや負担等、更には必要性について、職員の間で、或いは保護者を交えて合意を形成する。